

皮膚炎の原因となるガ類

■ 主な有害（有毒）ケムシたち

- チャドクガ
- イラガ
- カレハガ（マツカレハ）
- タケノホソクロバ



写真 1

4種類のケムシを紹介します。

(*写真：チャドクガ幼虫（写真1）、イラガ幼虫（写真2）、マツカレハ幼虫（写真3）、タケノホソクロバ幼虫（写真4）)



写真 2



写真 3



写真 4

▶ 有害ケムシ対策

庭木の手入れなどで植物とふれあう時には、タオルなどで首まわりを保護し、手袋をつけて作業をしましょう。（過去に有害ケムシの発生があった場合は、特に注意してください。）

作業後、衣服などにケムシが付いていないかチェックしましょう。



チャドクガ (ドクガ類)

チャドクガ類幼虫発生時期									動時期		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
				←	→		←	→			

ドクガ類は、幼虫、成虫ともにヒトに皮膚炎をおこします。

チャドクガは、名前のおり茶、ツバキ、サザンカなどの葉を餌としますので、庭木などで繁殖(はんしょく)します。



生態

年2回発生し、幼虫は5月から6月と、8月から9月に、成虫は7月から8月と、9月から10月にみられます。蛹(繭・まゆ)で越冬のします。

チャドクガ成虫
開翅時：約2.5mm内外
・尾端にある毒針毛が皮膚炎原因となります。

有害

被害

毒針毛に触れたことにより皮膚炎がおこります。毒針毛は、卵・幼虫・脱皮殻・蛹(繭も)・成虫の全期間、もっています。

幼虫による被害が多いです。

幼虫の毒針毛に直接接触したり、毒針毛のついた衣類や寝具などをかいて間接的に接触し、痒みの激しい皮膚炎をおこします。重症の場合には、蕁麻疹(じんましん)様症状が全身に出ることがあります。



チャドクガ幼虫
体長：約20mm
・約50万本の毒針毛をもっています。

有害



幼虫が原因の皮膚炎
(部位：上腕部)

■ 幼虫以外にも注意

➡ 成虫は、灯火にあつまると習性をもっています。黄色のガが集まっている場合は、近づかないように注意しましょう。

チャドクガ類成虫発生時期									羽化時期		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					←→				←→		



■ 成虫が室内に入ってきた場合

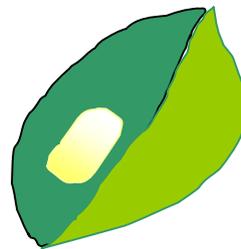
殺虫スプレーをかけると、あばれて毒針毛を周囲にまき散らします。壁などにとまった時に、水で濡らした雑巾などの厚手のもので静かに押さえて取り除きましょう。

➡ 冬季に食害された樹を剪定（せんてい）することは、脱皮殻に触れる可能性があり危険です。被害を受けた枝、葉には素手で触れないように注意しましょう。

【 毒針毛がついているところ 】

- 卵（卵塊）：葉裏（冬季）
- 幼虫：腹部背面
- 脱皮殻：被害樹（冬季）
- 成虫：尾端

キケン！

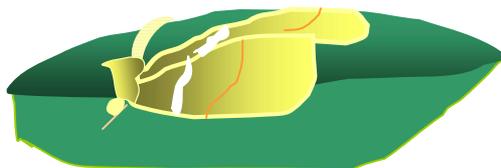


繭（まゆ）



📍 豆知識

成虫の尾端に毒針毛があるのは、繭の内側についた幼虫時代の毒針毛が羽化するときに付着したものです。



チャドクガ成虫（寿命は5～7日）

治療

1. こすらずに清潔な水で洗い流しましょう
2. セロテープで肌を押さえて毒針毛を取り除きましょう
(1. 2. の作業を何回も繰り返しましょう)

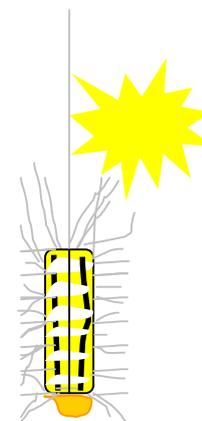
炎症があるときは、抗ヒスタミン軟膏（なんこう）を塗布しましょう
症状が改善しないときは、医療機関を受診しましょう

防除・駆除

ゴールデンウィークごろが、最初の防除に適した時期です。
庭木の葉の一部が、カスリ状に変化している場合、その裏面
か付近の葉に若齢幼虫の集団がみられます。被害をうけた庭木
の下に大きい袋を用意し、これを枝ごと切り取りましょう。
次に熱湯をかけたり（火傷に注意しましょう）、捕殺することで、
その後の被害を減らすことができます。

市販の園芸用殺虫剤で効果があります。

なお、刺激を与えると幼虫は糸を出しておりてきますので、
注意しましょう。



キケン!

幼虫の毒針毛に触れないように、手袋などをして作業をおこなってください。

< 参考図書 >

1. 梅谷献二 著 : 野外の毒虫と不快な虫 全国農村教育協会 (1994)
2. 武衛和雄 松崎沙和子 著 : 都市害虫百科 (株)朝倉書店 (1993)
3. 加納六郎 篠永哲 著 : 日本の有毒節足動物 東海大学出版社
(1997)
4. 山梨県福祉保健部衛生薬務課 衛生公害研究所 : 日常生活と周辺の
虫たち (2001)

イラガ類幼虫

幼虫は「サコケ」、「電気虫」などと呼ばれる有害毛虫のひとつです。

さまざまな樹木に大量発生し、幼虫にあやまって触れると強い激痛が走ります。県内にも分布しています。

生態

年1～2回発生します。

ヤナギに多く、サクラ、カキ、ナシ、クリ、ポプラなどの葉を食べます。

被害

触れると電撃的な激しい痛みがあります。数分間、赤く腫れたりしますが、痒みがおこることは少ないようです。ケムシの中で最も痛みが強いです。

治療

抗ヒスタミン軟膏を塗布（とぶ）しましょう。皮膚の炎症症状がひどい場合は、医療機関を受診しましょう。

駆除方法

集合している幼虫を発見し、葉ごとつま取って踏んで潰すなどが簡単です。

* 駆除作業をする時は、幼虫に触れないために手袋などをして皮膚の出る部分を隠しておこないましょう。

イラガ類幼虫										発生時期	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					←→			←→			



アオイラガ幼虫

体長：約2.5mm前後

前部と後部が特に盛り上がる

有害



イラガ繭（まゆ）

大きさ：約2.0mm×1.0mm

卵型

白地に茶色の模様

注意

幼虫の刺毛がついていることがありますので、素手で触れないようにしましょう

有害



イラガ類幼虫と脱皮殻
カキの葉から捕集
(10月中旬)
体長：約15mm

◎ 天敵

春，イラガ繭からガ類ではない別の昆虫が成長して出てきました。

名前はイラガイツツバセイボウです。イラガ卵に寄生するハチです。きれいな青緑色に輝く体をもっています。



イラガイツツバセイボウ (ハチ目セイボウ科)
体長：約10mm
翅：2対
(腹部末端には黒色の5つの突起があります)
無害

寄生された
イラガ繭

< 参考図書 >

1. 原色昆虫大図鑑 北隆館刊
2. 梅谷献二 著 : 野外の毒虫と不快な虫 全国農村教育協会 (1994)
3. 武衛和雄 松崎沙和子 著 : 都市害虫百科 (株)朝倉書店 (1993)
4. 加納六郎 篠永哲 著 : 日本の有毒節足動物 東海大学出版社 (1997)
5. 山梨県福祉保健部衛生薬務課 衛生公害研究所 : 日常生活と周辺の虫たち (2001)

カレハガ類幼虫

短くて毛がブラシ状になっているのが特徴的な幼虫です。日本全国に分布します。



側面



マツカレハ幼虫 (背面)

体長 : 約7.5mm*

* 老齢幼虫

有害



→ 3ヶ所の黒色の
ブラシ状の毛束が特徴です

生態 (マツカレハ)

年1回の発生。成虫はマツの葉、枝、樹皮などに約200~700個の卵を産みます。幼虫は夏から秋に孵化します。4~5回の脱皮をおこない、6月上旬ごろから繭(まゆ)をつくりはじめます。10月ごろから集団で越冬します。越冬場所は、樹皮の裂け目、根元などです。

クロマツ、アカマツ、ヒマラヤスギなどの葉を食べて害をあたえます。

被害

幼虫や繭の毒針毛に触れると、痛みを感じ、赤くなり、腫れて、痒みがおこります。2~3週間痒みが続きます。時には発熱などを伴うこともあります。

治療

- 毒針毛が刺さった場合は、アルコール綿でふきとるとよいでしょう
- きれいな流水であらいましょう
- ステロイド軟膏を塗布しましょう
- 症状が改善しない場合などは医療機関を受診しましょう。

有毒5種類のカレハガ類の生態と食性

カレハガ類	越冬	幼虫	成虫	食性
タケカレハ	20mm, 幼若幼虫	8-9月	10月頃	タケ, ササ, ススキ, ヨシ(など)
クヌギカレハ	卵	5月頃	10-11月	クヌギ, コナラ, クリ, カシなど
マツカレハ	20-25mm, 幼若幼虫	4月頃	6-10月(7-8月最盛期)	アカマツ, クロマツ, カラマツ
ツガカレハ	20mm, 幼若幼虫	6月	7-8月	エゾマツ, トドマツ, モミ, ツガ, ヒマヤラスギなど
ヤマダカレハ	卵	4-7月	7-9月	クヌギ, コナラ, アベマキ, クリ, カシなど

駆除

9月ごろ、樹幹や枝にムシロや藁束(わらたば)を巻(ま)いておきましょう。(越冬のため幼虫がこの中に入ります)厳冬期(2月ごろ)にとりはずし、焼却処分をすることで有効に駆除ができます。

4月ごろの越冬幼虫の活動時期に、園芸用殺虫剤を使用して駆除する方法もあります。



< 参考図書 >

1. 梅谷献二 著 : 野外の毒虫と不快な虫 全国農村教育協会(1994)
2. 武衛和雄 松崎沙和子 著 : 都市害虫百科(株)朝倉書店(1993)
3. 加納六郎 篠永哲 著 : 日本の有毒節足動物 東海大学出版社(1997)
4. 山梨県福祉保健部衛生薬務課 衛生公害研究所 : 日常生活と周辺の虫たち(2001)

タケノホソクロバ幼虫（マダラガ類）

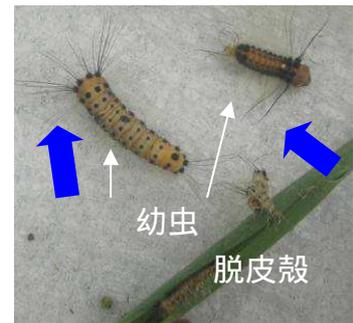
日本各地に分布します。竹や笹の葉を幼虫は食べます。幼虫には毒針毛があります。

タケノホソクロバ幼虫									発生時期		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
					←←←			←←←		←←←	

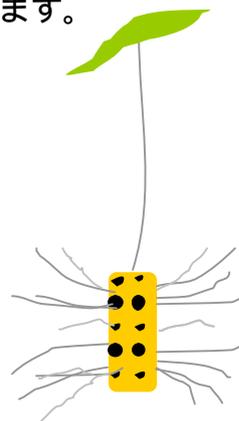
生活史

年2～3回発生します。

毒針毛を持った幼虫は、孵化したあとは、集団で生活をしますが、成長するにしたがい分散し、単独（1枚の笹に1～2匹）で行動します。



蛹になる前の幼虫の時期では、葉の裏に1～2頭がいるくらいになります。孵化する場所は、腐った竹や木の内側など軒先です。



糸を出して葉から下がります

タケノホソクロバ幼虫

体長：約2.7mm

体色：黄褐色

←：青矢印

体に黒色の瘤があり、そこから長い毒針毛がはえています。

有害

被害

竹藪（やぶ）に入ったり、庭の手入れなどをした際に、幼虫に気付かずにあやまって毒針毛に触れてしまい、赤く腫れたり、痒みなどが起こります。



治療

抗ヒスタミン軟膏を塗布しましょう。

皮膚炎の症状がひどい場合は、医療機関を受診しましょう。

タケノホソクロバ成虫

体長*：約10mm

(* 翅を広げた大きさ)

体色：黒色 **無害**

駆除

ケムシ用殺虫剤を幼虫が発生している笹や竹の葉に散布しましょう。集団発生している若い幼虫の時期に駆除をおこなうのが効果的です。園芸用殺虫剤が有効です。



< 参考図書 >

- 1 . 梅谷献二 著 : 野外の毒虫と不快な虫 全国農村教育協会 (1994)
- 2 . 武衛和雄 松崎沙和子 著 : 都市害虫百科 (株)朝倉書店 (1993)
- 3 . 加納六郎 篠永哲 著 : 日本の有毒節足動物 東海大学出版社 (1997)
- 4 . 山梨県福祉保健部衛生薬務課 衛生公害研究所 : 日常生活と周辺の虫たち (2001)